

博士学位論文審査結果の概要

ふりがな	はやし しずこ
氏名	林 静子
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	博第11号
学位授与年月日	平成27年3月13日
学位論文題目	看護師の視覚を用いた観察に基づく臨床判断の構造
審査委員	主査 石川県立看護大学 教授 石垣和子 副査 石川県立看護大学 教授 丸岡直子 副査 石川県立看護大学 教授 大木秀一 副査 石川県立看護大学 教授 長谷川昇
<h3>審査結果の概要</h3>	
<p>この学位論文は、看護師が常に必要とされる臨床判断を、思考のプロセスに添って明らかにしようとするものであり、33名の経験年数の異なる看護師の協力のもとでの実験的な手法を用いた研究結果を示すものである。</p> <p>まず、研究協力者に対して模擬患者・模擬病室の4種類の静止画像を見せ、眼球の動きを測定するTalk Eye IIにて注視する対象や注視時間を測定した。その結果を再現し、振り返る際の研究協力者の発話を記録・分析するプロトコル分析を取り入れた。このような画期的な研究方法を編み出した点にこの研究の獨創性が現われている。また、臨床判断の思考過程には、「確認・状況把握型」、「推論型」、「ケア決定型」、「直感的ケア決定型」という4種類の思考類型があることを見出し、最後の「直感的ケア決定型」の発見は国内外の誰も提唱していない新発見である。さらに、経験年数1年目では「確認・状況把握型」にとどまり、2年以上の経験者以降は「推論型」、「ケア決定型」へと思考を進めていることを明らかにした。また10年目以上の経験者では、注視対象とその場面での発話の内容の不一致が増加する傾向があることに着目し、上級実践者の周辺視機能等に対する考察を深めている。注視対象とその場面での発話の内容の不一致は、観察対象によっても差があることも示し、観察対象が点滴静脈注射・輸液である場合においてはもっとも発話と観察が一致する事を示した。</p> <p>本研究はこのように、着想、研究計画、分析の全体にわたって創意工夫に満ち、結果には新発見が含まれており、大変優秀な論文であると考えられる。また、この研究の一部はすでに学術誌から「病室観察時における看護師の眼球運動の傾向」（筆頭著者：林静子）として掲載証明が発行されている。</p> <p>審査においては、研究の概念枠組みと研究方法のつながりの明確化、最終結果となる臨床判断の構造を示す図の再考、発話思考法・プロトコル分析の説明の追加、分析目的による年齢区分の食い違いの説明、用語の統一等の指摘があり、このすべてをクリアする修正を行って論文を完成した。この修正過程においてさらにこの研究の価値や結果の意義を再確認し、研究能力を高めたものと考えられる。</p> <p>これらのことによって、林氏は看護学や看護実践の発展に寄与する研究能力を獲得したことを証明したものと考えられる。</p>	